

環境ホルモン 内分泌攪乱物質

ここ数年、化学合成物、医薬品、溶剤ならびに環境汚染物質がステロイドホルモン(エストロゲン や アンドロゲン)の類似効果あるいは抑制効果を示すことが指摘されている。



2000年5月13日



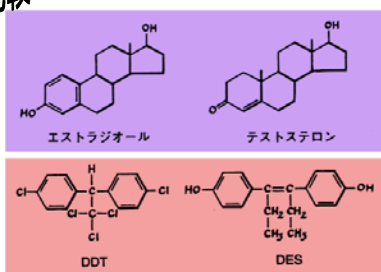
朝日新聞2008年1月8日

第1の原因物質: 異種ホルモン

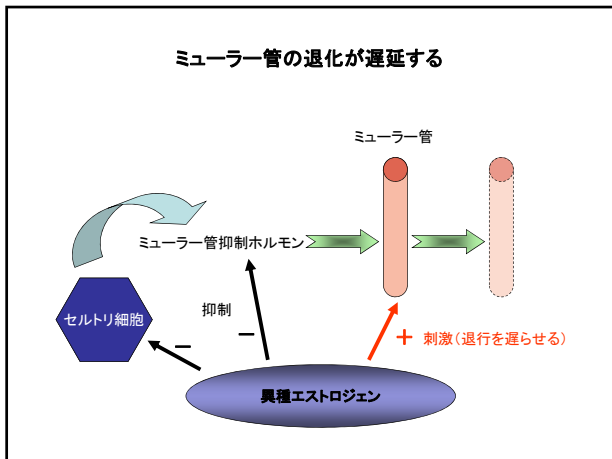
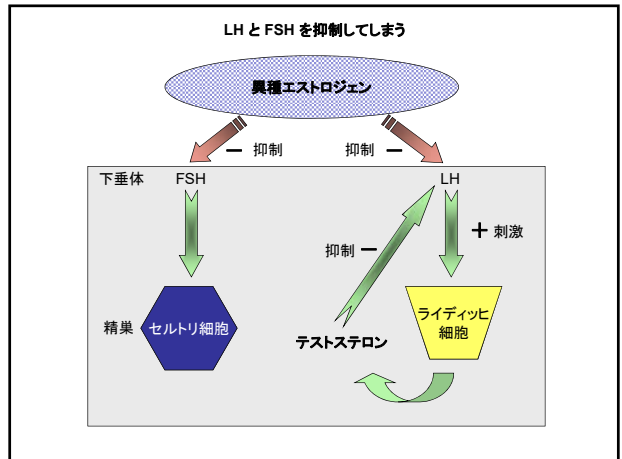
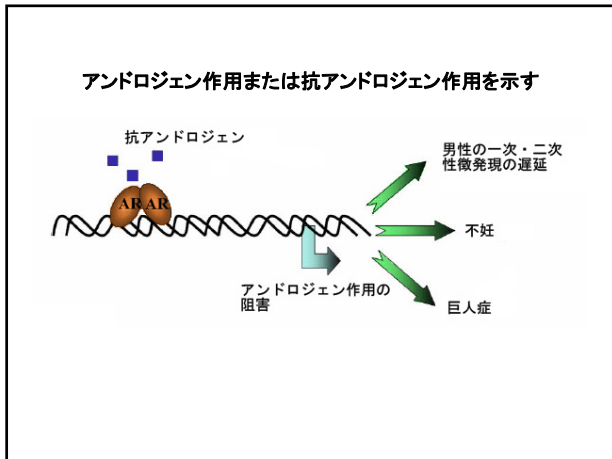
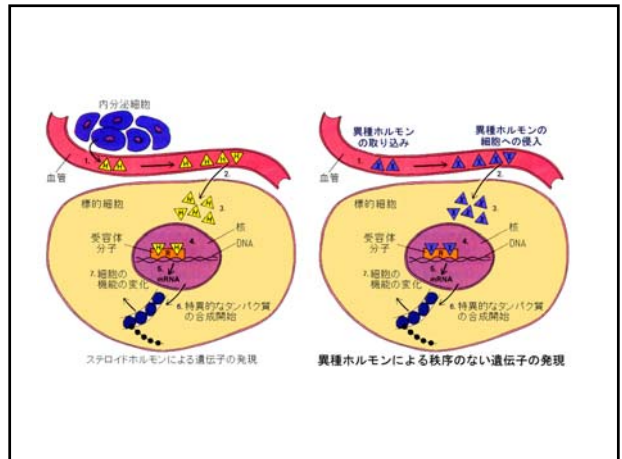
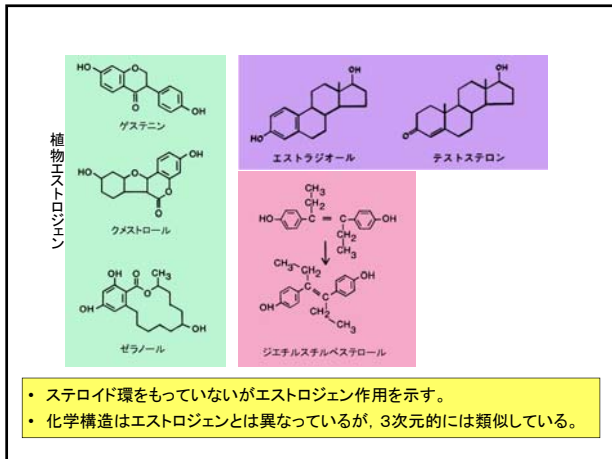
異種ホルモンとはステロイドホルモン作用またはその抑制作用を示す合成物

- 農薬 (エンドスルフアン, p,p'DDE, o,p' DDT, クロルデン など)
- 染料および塗料 (フェノールレッド など)
- プラスチック材料の可塑剤 (ビスフェノール A など)
- ジエチルstilbestrol (DES)

化学構造の比較

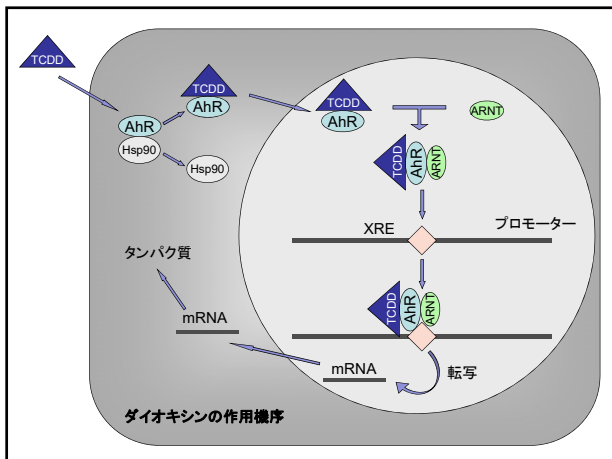


上段は天然のエストラジオールとテストステロン
下段は殺虫剤DDTと合成エストロゲンDES(ジエチルstilbestrol)
この化学構造からは構造の類似性は認められないが、天然のホルモンをよ似た作用を及ぼすことがわかっている。



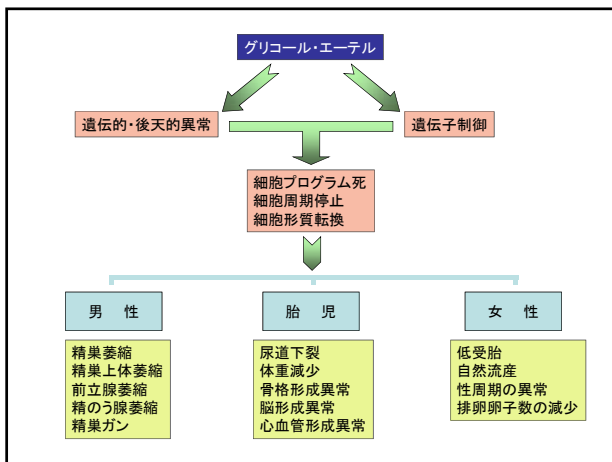
第2の原因物質:
ダイオキシン類

- × ガン化促進
- × 免疫障害
- × 肝障害
- × 皮膚毒性
- × 致死性
- × 出生異常
- × 内分泌攪乱
- × 酵素の発現



第3番目の原因物質: グリコール・エーテル

グリコール・エーテルは無色の有機溶剤の1種で、水および多くの有機溶剤と混和する。このため、ラッカー、塗料、染料、インク、洗浄剤ならびに液体洗剤の製造工程で使用されている。



環境ホルモン学会 JSEDR

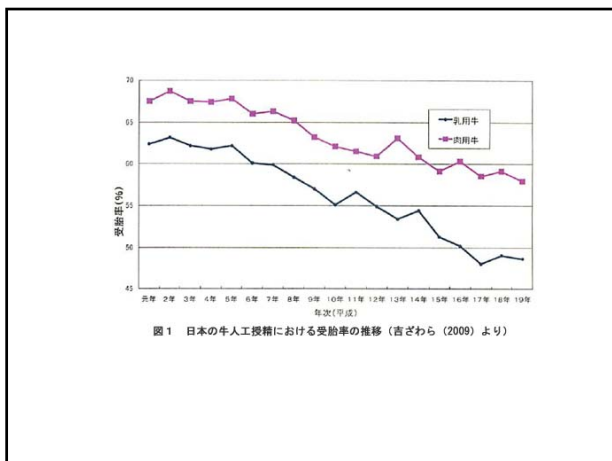
日本内分泌混乱化学物質学会 English

- HOME
- 研究委員会
- ニュースバックナンバー
- 掲示板
- 学会のご案内
- 講演会
- ニュースレター
- リンク集

環境ホルモン学会(正式名:日本内分泌混乱化学物質学会)は、内分泌混乱化学物質(環境ホルモンの研究)に関する情報交換や成果の発表の場として、1999年6月に発足した学会です。このホームページでは、本学会の活動や情報について積極的に紹介していきたいと考えております。

※会長からのメッセージ
今回の震災と津波は未曾有の大災害であり、その回数は多くの困難が待ち構えています。国民の多くの支援と東北の方々のわが国を助けてくれる必要を感じております。その為に関心を抱かれておられる人々に敬意を表すると共に一日も早い復興を祈ります。原発事故の初期はやがて後手後手にまわった感があり、3週間以上も休むらず原子炉の冷温停止に成功していません。新たな放射線の大量放出を防止し早期地域の回復を目指し、原発災害対策本部(内閣総理大臣)は強力な指導力を発揮し、科学・技術力を含め国家の総力をあげて対策をとって頂きたいと希望します。環境ホルモン学会会長 新田昌敏

<福島原発事故の対応について>ヨウ素は甲状腺ホルモンの材料として甲状腺に蓄積する性質があります。そのため放射性ヨウ素(131-I)も甲状腺に蓄積し、放射線によって甲状腺癌などを発生させることがあります。発表されている現在の大気中・水道中で検出された濃度ではその可能性は低く、したがってヨウ素剤服用する必要はないとされています。ヨウ素入りのお菓子を飲むことは有効ですが、下記のものを参照してください。(内分泌学会のHPをご覧ください) <http://www.jse.or.jp/japanese/11-09-18/>、(放射線医学総合研究所のHPを)ご覧ください: <http://www.nirs.aoj.jp/index.shtml>



化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応
— EXTEND 2010 —

平成22年7月
環境省

<http://www.env.go.jp/chemi/end/extend2010.html>

本プログラムのサブタイトルは、EXTEND 2010とした。従来のExTEND2005の基本的枠組みを引き継ぐことから類似の名称を採用しつつ、行政的な課題により積極的に取り組むようプログラムを発展させることを意図している。
EXTEND: Extended Tasks on Endocrine Disruption
(IBExTEND: Enhanced Task on Endocrine Disruption)